

令和6年9月30日

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果について【中学校】

宇都宮市教育委員会

各種学力調査を有効に活用して児童生徒の学力向上を図るためには、調査結果を分析して児童生徒の学力や学習状況等についての成果や課題を明らかにした上で、課題の解決に向けて学習指導の工夫・改善を図ることや実効性のある取組を見いだし実践することが大切です。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本市立中学校生徒の学力や学習状況の概要、指導の改善策などをまとめました。

参考：「全国学力・学習状況調査」について

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善（学力向上PDCA）サイクルを確立する。

2 調査期日・調査対象 令和6年4月18日（木） 第3学年

3 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ① 国語
- ② 数学



(2) 質問調査

- ① 生徒に対する調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関すること
- ② 学校に対する調査 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関すること

4 本市の参加状況

- (1) 学校数 宇都宮市立中学校 25校（25校中）
- (2) 生徒数 国語 3,771人 数学 3,770人

5 留意事項

(1) 調査結果について

本調査は対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 教科に関する調査について

- ① 調査結果のデータについては、本市の傾向等を分かりやすく示すために、教科全体及び分類・区分別の平均正答率、正答数度数分布を示した。
- ② 平均正答率等の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「傾向と課題」「指導の工夫・改善」等の分析を併せて記載した。
 - ・ 「平均正答率」、「正答数の分布」について状況を記載した。
 - ・ 「傾向と課題」は、分類・区分ごとに、良好な状況や課題が見られた設問の状況を記載した。
 - ・ 「指導の工夫・改善」は、調査結果に見られた課題を解決するため、今後の学習指導において参考となるポイントを分類・区分ごとに記載した。

(3) 質問調査について

本市の推進する教育施策と関連の深い質問及び全国との比較において本市の特徴が見られる質問等を取り上げて、調査結果と傾向、考察を示すとともに、クロス集計結果も踏まえた指導の留意点、改善のポイントを併せて記載した。

1 中学校第3学年 国語

平均正答率

(%)

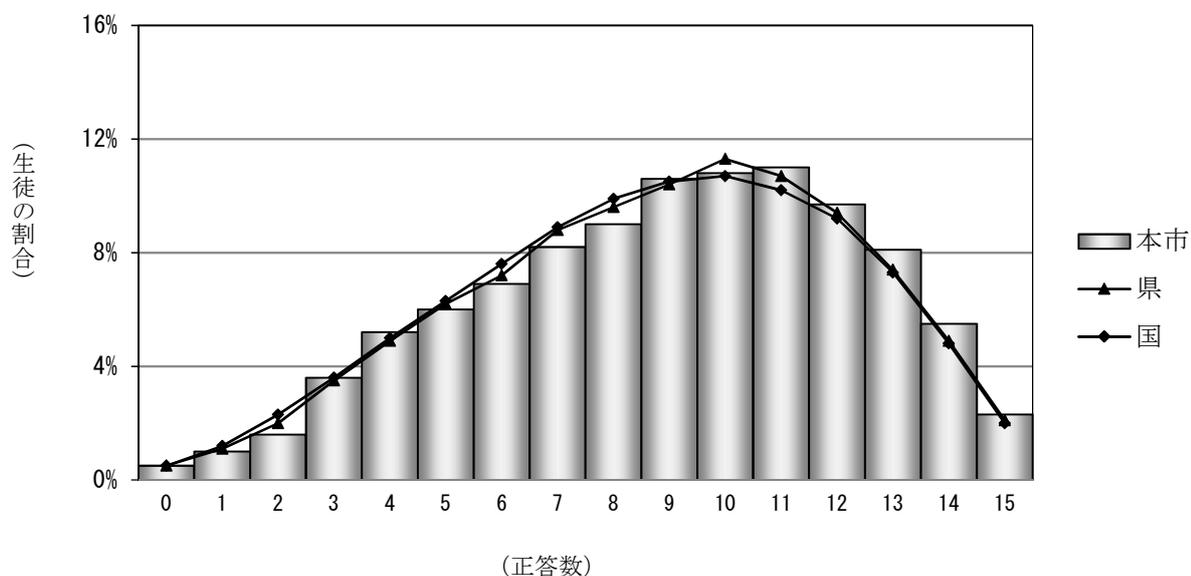
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立）	全国（公立） b	差 a - b
国語	59.6	59	58.1	1.5

分類・区分別平均正答率

(%)

分類		区分	宇都宮市 (a)	栃木県	全国 (b)	差 (a-b)
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	59.3	58.5	59.2	0.1
		(2)情報の扱い方に関する事項	60.0	59.9	59.6	0.4
		(3)我が国の言語文化に関する事項	78.4	75.4	75.6	2.8
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	61.8	60.4	58.8	3.0
		B 書くこと	67.2	66.8	65.3	1.9
		C 読むこと	49.7	48.7	47.9	1.8
評価の観点	知識・技能	62.7	61.8	62.0	0.7	
	思考・判断・表現	57.6	56.6	55.4	2.2	
	主体的に学習に取り組む態度					

正答数度数分布



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

言葉の特徴や使い方に関する事項 (全国平均との差 0.1 ポイント)

- 漢字を書く設問の正答率は 69.4%で、全国平均を 0.6 ポイント上回る。文脈に即して漢字を正しく書くことに良好な状況が見られる。
- 短歌に用いられた表現の技法を選ぶ設問の正答率は 54.1%で、全国平均を 0.8 ポイント下回る。表現の技法の理解について課題が見られる。

情報の扱い方に関する事項 (全国平均との差 0.4 ポイント)

- 文と文との関係を説明したものとして適切なものを選ぶ設問の正答率は 75.1%である。具体と抽象など情報と情報との関係について理解することに良好な状況が見られる。

我が国の言語文化に関する事項 (全国平均との差 2.8 ポイント)

- 行書の特徴を踏まえた書き方についての説明として適切なものを選ぶ設問の正答率は 78.4%で、全国平均を 2.8 ポイント上回る。行書の特徴や楷書との違いを理解することに良好な状況が見られる。

話すこと・聞くこと (全国平均との差 3.0 ポイント)

- 話し合いの中の発言の意図について説明したものとして適切なものを選ぶ設問の正答率は 66.7%で、全国平均を 3.5 ポイント上回る。必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることに良好な状況が見られる。

書くこと (全国平均との差 1.9 ポイント)

- 物語の続きについて表現を工夫して書くとともに、表現の効果を説明する設問の正答率は 52.3%で、全国平均を 3.0 ポイント上回る。自分の考えが伝わる文章になるように書くことに良好な状況が見られる。
- 同設問において、解答類型から、物語の続きは書いたが、表現の効果が説明できなかった割合は 24.8%であり、無回答率は 14.3%であった。伝えたいことや意図に応じて表現の効果を考えながら書くことに課題が見られる。

読むこと (全国平均との差 1.8 ポイント)

- 本文中の二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものを選ぶ設問の正答率は 64.3%である。主張と例示との関係を捉えることに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

言葉の特徴や使い方に関する事項

表現の技法については、文の中での意味や形式的な特徴、用法について整理して理解するとともに、話や文章の中で使うことが求められる。表現の技法を使って短文を作ったり話したりする活動を意図的に設定することはもとより、生徒同士が書いた文章を読み合ったり相互に評価する場面や推敲する活動を重視し、その際には、表現の技法についての視点を示したり、生徒のよい取組を価値付けたりすることが効果的である。

書くこと

文章の内容を伝えたり印象付けたりして描写することについては、自分の考えが伝わる文章になるよう、語句や表現がどのように働いているかを考えながら、より効果的な語句や表現を選ぶ必要がある。

そのため、書く活動と併せて、生徒が相互に読み合う場面や推敲する場面を意図的に設定し、描写が自分の考えを明確に伝えるために機能しているか、どのような効果を生んでいるかなどについて読み手の立場から検討し、その上で誤解のない表現やより効果的な表現にしていくことが重要である。

2 中学校第3学年 数学

平均正答率

(%)

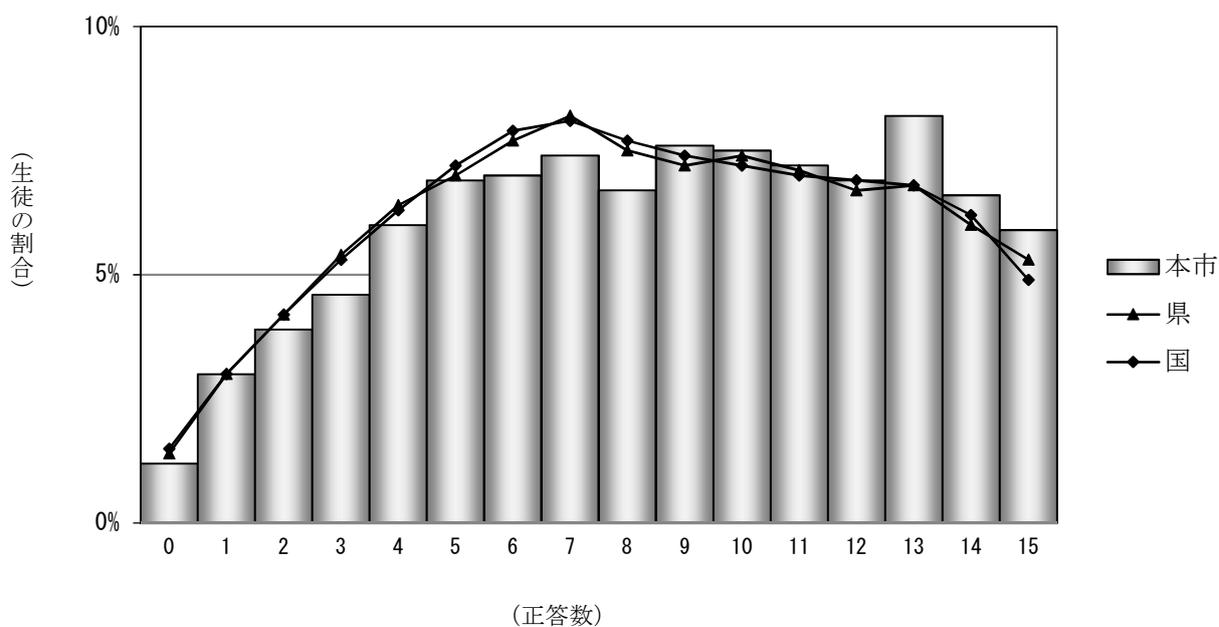
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立）	全国（公立） b	差 a - b
数 学	54.8	53	52.5	2.3

分類・区別平均正答率

(%)

分 類	区 分	宇都宮市 (a)	栃木県	全国 (b)	差 (a-b)
学習指導 要領の 領域	A 数と式	54.2	51.6	51.1	3.1
	B 図形	43.6	40.5	40.3	3.3
	C 関数	61.7	60.7	60.7	1.0
	D データの活用	57.1	55.4	55.5	1.6
評価の 観点	知識・技能	65.2	63.1	63.1	2.1
	思考・判断・表現	31.9	30.0	29.3	2.6
	主体的に学習に取り組む態度				

正答数度数分布



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

数と式 (全国平均との差 3.1ポイント)

- n を整数とするとき、連続する二つの偶数をそれぞれ n を用いた式で表す設問の平均正答率は 42.7% であり、全国平均を 7.9 ポイント上回った。事象における数量やその関係を文字を用いた式で表すことについて良好な状況が見られる。

図形 (全国平均との差 3.3ポイント)

- 正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選択する設問の平均正答率は 71.1% であり、全国平均より 2.8 ポイント上回る。回転移動についての理解に良好な状況が見られる。

関数 (全国平均との差 1.0ポイント)

- 一次関数 $y = ax + b$ について、 $a = 1$ 、 $b = 1$ のときのグラフに対して、 b の値を変えずに、 a の値を大きくしたときのグラフを選ぶ設問の平均正答率は 67.2% であり、全国平均を 1.9 ポイント上回る。一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解することに良好な状況が見られる。
- 2つのグラフからストープの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する設問の平均正答率は 18.2% で、「思考・判断・表現」に関する問題の中で最も正答率が低い。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られる。

データの活用 (全国平均との差 1.6ポイント)

- 車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選択する設問の平均正答率は 50.9% であり、全国平均を 2.4 ポイント上回る。複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することに良好な状況が見られる。
- 車型ロボットの進んだ距離について、5つの箱ひげ図を比較して説明する設問の平均正答率は 28.8% で、「データの活用」領域では最も正答率が低い。複数の集団のデータの分布の傾向を読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。

指導の工夫・改善

関数

日常生活や社会の事象を考察する場面では、事象の中にある関数関係を見だし、数学的に表現・処理して問題を解決することが重要である。その際、問題解決の構想を立てたり、問題解決の過程や結果を振り返ったりする活動を取り入れることが大切である。また、事象の特徴を的確に捉え、表・式・グラフを活用し数学的な表現を用いて問題解決の方法を説明できるよう指導することが大切である。

データの活用

データに基づいて考察する場面では、データの傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明できるようにすることが大切である。その際、代表値の意味や求め方、四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解し、判断の理由を四分位数や箱ひげ図の位置などを根拠として説明できるようにすることが大切である。

3 中学校質問調査

【生徒質問調査の状況】調査結果（全65問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、全国平均と5ポイント以上差があり本市生徒の特徴を表すものを取り上げた。
- ・ 肯定的な回答の割合は「当てはまる（している）」、「どちらかといえば当てはまる（している）」等と回答した割合の合計である。（* それ以外の選択肢等の場合）

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	全国平均との差
1	1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	78.8%	3.4
2	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	90.2%	8.0
3	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか	89.8%	4.9
4	1, 2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	83.8%	3.5
5	1, 2年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか *週3回以上	80.3%	0.1
6	1, 2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか ・自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	88.1%	1.9
7	1, 2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか ・友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	87.9%	2.7
8	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く） *30分以上	29.8%	△6.6
9	自分には、よいところがあると思いますか	86.7%	3.4
10	将来の夢や目標を持っていますか	70.5%	4.2
11	健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか	85.1%	8.4
12	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	95.1%	4.7
13	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	74.9%	7.4
14	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	80.2%	4.0
15	地域や社会をよくするために何かしたいと思いますか	82.6%	6.5

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

授業や学習について (No. 1～4)

- No. 1, 3の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均より3.4ポイント、4.9ポイント上回っている。各学校においては、生徒が見通しをもって学習活動に取り組めるよう学習課題の提示の仕方の工夫や、自らの学びを振り返って次につなげることができるよう時間の設定など、主体的な学びの視点からの授業改善が進められているものと考えられる。
- No. 2の肯定的回答の割合は、全国平均より8.0ポイント上回っており、特に上回りが大きい。各学校においては、生徒同士が目標を共有したり、協働して解決方法を話し合ったりする活動を充実させるなど、対話的な学びの視点からの授業改善が進められているものと考えられる。

ICT機器を活用した学習状況について (No. 5～8)

- No. 5について、週3回以上授業で使用していると回答している生徒の割合は、全国平均と同程度であるが、No. 6, 7の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均より1.9ポイント、2.7ポイント上回っている。各学校においては、学習活動の中での1人1台端末の効果的な活用を踏まえた授業の工夫改善が進められているものと考えられる。
- No. 8について、学校の授業時間以外に、1日当たり30分以上、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていると回答している生徒の割合は、全国平均を6.6ポイント下回っている。授業時間以外でのより一層の活用に向けて、授業時間内での活用との連携を図りながら、効果的な課題の設定等について考えていく必要がある。

自分自身のことについて (No. 9～11)

- No. 9, 10の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均を3.4ポイント、4.2ポイント上回っている。各学校においては、特色ある教育活動や授業の工夫改善が進められていることにより、様々な活動や経験を通して、自己肯定感や自己有用感が育成されているものと考えられる。

周囲とのかかわりについて (No. 12～15)

- No. 12, 13の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均を4.7ポイント、7.4ポイント上回っている。各学校においては、安心感をもって学校生活を送れるよう、教職員が日常的に生徒とかかわりながら生徒理解を深め、信頼関係を構築することで、効果的に教育活動が進められているものと考えられる。

【学校質問調査の状況】

調査結果（全80問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、全国平均と5ポイント以上差があり本市の特徴を表すものを取り上げた。
- ・ 肯定的な回答の割合は「行った」、「どちらかといえば行った」等と回答した割合の合計である。
（* それ以外の選択肢等の場合）

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	全国平均との差
1	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	100%	6.0
2	調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	92.0%	3.6
3	調査対象学年の生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか	100%	3.9
4	調査対象学年の生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	96.0%	5.1
5	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）	84.0%	△0.1
6	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか	100%	5.2
7	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	92.0%	2.7
8	令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）	100%	16.8
9	前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	92.0%	23.0
10	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者との相互理解は深まりましたか	92.0%	7.9
11	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか *週3回以上	92.0%	1.2
12	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか	100%	15.6

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

授業中の指導や生徒の学習状況について (No. 1～4)

- No. 1 の肯定的回答の割合は 100% であり、全国平均より 6.0 ポイント上回っている。各学校においては、教育目標の実現に向けた取組が行われる中で、生徒に必要な資質・能力を育成するための指導が、計画的・組織的に推進されているものと考えられる。
- No. 3 の肯定的な回答の割合は、全国平均より 3.9 ポイント上回っている。各学校においては、生徒同士が協働して解決方法を話し合う活動を充実させるなど、対話的な学びの視点からの教育内容や指導方法の改善及び充実が図られているものと考えられる。
- No. 2, 4 の肯定的な回答の割合は、それぞれ全国平均より 3.6 ポイント, 5.1 ポイント上回っている。各学校においては、探究的な学習の中で、生徒が自ら進んで学習に取り組みながら、知識や技能を身に付けるとともに、課題設定能力や情報収集能力などを高めることができるよう、学習課題や学習活動を工夫するなど、主体的な学びの視点から、学習指導の充実が図られているものと考えられる。

研修など教職員の資質向上に関する状況について (No. 5, 6)

- No. 6 の肯定的回答の割合は、全国平均より 5.2 ポイント上回る。各学校において、授業力や学級経営力等の資質・能力の向上を目指した取組が推進されているものと考えられる。

学力・学習状況調査結果の活用について (No. 7, 8)

- No. 7, 8 の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均より 2.7 ポイント, 16.8 ポイント上回っている。自校の調査結果について分析を進め、学校全体で成果や課題を共有するとともに、保護者等への公表にも取り組むなど、教育活動のさらなる充実のために活用する取組が推進されているものと考えられる。

本市の推進する取組等について (No. 9～12)

- No. 9 の肯定的回答の割合は、全国平均より 23.0 ポイント高く、上回り方が大きい。小・中学校が連携を図り、義務教育 9 年間を見通した系統的な指導による確かな学力を育む教育が推進されているものと考えられる。
- No. 10 の肯定的回答の割合は、全国平均より 7.9 ポイント上回っている。各学校においては、魅力ある学校づくり地域協議会との連携強化を図るなど、保護者や地域の方々と連携・協働した学校づくりが推進されているものと考えられる。
- No. 11, 12 の肯定的回答の割合はそれぞれ全国平均より 1.2 ポイント, 15.6 ポイント上回っている。各学校においては、1 人 1 台端末を効果的に活用することができるよう、学習活動の充実に向けた指導が推進されているものと考えられる。

【生徒質問調査と教科の正答率のクロス集計の状況】

- ・ 学力層を上位から順に25%ずつ、4層（A-D層）に分け、各層の肯定的な回答の割合を基に意識と平均正答率との相関を分析している。
- ・ A-D層間の開きの大きい質問は、正答率の高い生徒ほど、肯定的に回答している傾向が見られる質問であり、平均正答率との関係があるものと考えられる。

〈A-D層の差が10ポイント以上のものから抜粋〉

No.	質問の内容	宇都宮市	
		A-D層の差	肯定的な回答割合
1	1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	26.1	83.8%
2	1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	24.6	78.8%
3	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	21.7	83.6%
4	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	20.0	81.0%
5	1, 2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	19.9	85.2%
6	数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用できないか考えますか	18.0	71.9%
7	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く） *100冊以上	17.4	24.0%
8	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） *2時間以上	16.0	74.1%
9	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがありますか	15.7	73.7%
10	国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈していますか	15.0	55.1%
11	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	14.3	80.2%
12	数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか	14.2	77.9%
13	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	13.3	90.7%
14	1, 2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	11.5	90.5%
15	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか	11.0	89.8%

傾向と考察及び指導の留意点

- 正答率が高い生徒の方が、以下の点について肯定的に回答している傾向が見られる。
- 指導の留意点等は、「➡」以下に示した。

授業での学習について

- ・ 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。
- ・ 学習内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている。
- ・ 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫している。
- ・ 自分の考えと違う意見について考えるのは楽しい。

➡ 個々の生徒の学習状況を丁寧に見取り、個に応じた適切な指導・支援を行いながら、発問の仕方や学習活動を工夫するなどして、生徒がじっくりと考え、まとめ、振り返る時間を確保するとともに、授業の中でつぶやきを取り上げたり、他者と自分の意見や学び方の比較を促したりするなど、教師のコーディネート力が求められる。

言語能力・情報活用能力の育成について

- ・ 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。
- ・ 各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめている。
- ・ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。

➡ 情報を収集し、読み取り、まとめる活動や文章の構想、個々の考えや意見の集約、発表等の活動については、1人1台端末を有効に活用した協働的な学習を推進するとともに、まとめたり、書いたりする課題などについては、これまでの実践とICT機器との最適な組み合わせを十分に検討するなど、言語能力や情報活用能力の育成に係る取組の充実を図ることが必要である。

各教科の見方・考え方を働かせることについて

- ・ 国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。
- ・ 数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用できないか考えている。
- ・ 算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている。

➡ 教科等の物事を捉える視点や考え方、思考の仕方を意識させながら、資質・能力を身に付けさせることができるよう、教材や課題設定、発問等により意図的に働きかけをするなど、各教科等の特質を踏まえた上での指導を重ねることが重要である。